

## 令和元年度 8月定例記者会見 会見録

日時 令和元年8月20日(火)午後2時00分～2時45分

場所 市役所2階第1特別会議室

(市長)

はじめに、今月26日(月)に始まります市議会9月定例会議で提案させていただき、主な議案についてでございます。

まず、義務教育学校設置に伴う条例改正についてでございます。現在の青野原小・中学校と青根小・中学校を再編し、来年4月の、本市で初となる義務教育学校の設置に向けまして、「相模原市立学校の設置に関する条例の一部を改正する条例」を提案させていただきものです。学校名につきましては、子どもたちをはじめ、地域の皆さまのご意見を尊重し、「青和学園」という名称を提案しております。神奈川県内でも、義務教育学校の設置事例は少なく、現在のところ、横浜市の金沢区と緑区に2校設置されているのみでございます。義務教育学校の設置により、義務教育の9年間を見通した、切れ目のない、より質の高い学び場の実現を目指してまいります。

そのほか、条例に関しましては、「相模原市 生物多様性に配慮した自然との共生に関する条例」の制定や、国の法改正に伴う条例改正などについて、提案させていただき予定でございます。

次に、9月補正予算案についてでございます。この度の補正予算には、私が市長に就任するにあたり、掲げてきた政策を実現するための、いわゆる肉付け予算として、総額で約12億円を計上しております。主な内容でございますが、市民の皆さまの市への愛着を醸成し、シビックプライドを高めるための条例制定に向けた検討経費や、SDGsを推進するための経費、人権に関する条例の検討を進めるための経費などを計上させていただいております。

9月定例会議の関連は以上となります。

次に、世界アルツハイマーデーにちなんだ啓発事業についてでございます。お手元に資料もご用意いたしましたが、世界アルツハイマーデーである9月21日(土)にあじさい会館において、家族会や支援団体などの皆さまと共に、普及啓発イベントを開催いたします。イベント当日には、認知症の方が住み慣れた地域で生活を続けられるよう、基礎知識を学ぶ講座や、認知症の方のご家族による講話を行うほか、認知症の母と、介護する父の姿を1200日間にわたり記録したドキュメンタリー映画を上映いたします。イベントに向けましては、9月から、各公民館において周知ポスターを掲示するほか、各図書館や あじさい会館、アリオ橋本で認知症に関する展示等を行うなど、PR活動を展開してまいります。ぜひ、多くの皆さまに参加いただき、認知症に関する正しい知識と理解を深めていただきたいと思います。

次に、オリンピック・パラリンピック開催1年前イベントである「相模原で応援しよう! ~T

okyo 2020 1Year to Go! ~」についてでございます。オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図るとともに、パラスポーツを通じた障がいへの理解を図るため、8月24日（土）、25日（日）に、アリオ橋本において、東京2020公認プログラムとして実施いたします。このイベントでは、本市中央区に在住で、東京オリンピックに出場が内定している飛板飛込競技の坂井丞選手や、ノジマステラの大野忍選手ら、世界を相手に戦ってきたアスリートによる、トークショーを行います。また、Team UKYOに所属する自転車ロードレースのプロ選手である畑中勇介選手と、元プロ選手で、現在はツアー・オブ・ジャパン大会ディレクターや、レースの解説者等を務める 栗村修氏による、スペシャル対談も予定しております。体験エリアにおいては、自転車ロードレースのロードバイクの試乗をはじめ、パラリンピックの競技であるボッチャや、車いすバスケットボールのフリースローなどが体験できます。そのほか、本市がホストタウンになっているブラジルとカナダに関連した展示や、TEAM SAGAMIHARAのロゴが入ったTシャツやタオルが抽選で当たるオリンピック・パラリンピックに関するクイズラリー、来場者の皆さままで踊る 東京五輪音頭 - 2020 -、25日には、本市初登場となる、東京2020マスコット「ミライトワ」と「ソメイティ」によるステージなど、様々な催しで、大いに機運が高まることを期待しております。記者の皆さまには、ぜひ、取材をお願いいたします。

最後になりますが、伊勢丹相模原店の閉店についてでございます。平成2年の開店以来、29年に渡り、本市及び相模大野のまちづくりにおいて大きな役割を果たし、本市の成長とともに歩んできた伊勢丹相模原店に対し、敬意を表するものでございますが、閉店となることについては、大変残念な思いでございます。これまで、閉店後のまちづくりにつきまして、まちの賑わいと回遊性が確保されるよう、三越伊勢丹ホールディングスに対し、様々な形で要望してきたところでございます。また、市民の皆さまの関心が高い、跡地利用については、地域では、売却に向けた話など、様々な話がされていることも承知しておりますが、現時点では、同社から正式に示されていないところでございます。そうしたことから、先日8月16日には、私自身が三越伊勢丹ホールディングスを訪問し、改めて、跡地利用に関すること、また、閉店後においても、商業機能や、歩行者動線を確保することなどについて、同社に対し、強く要望してきたところでございます。伊勢丹相模原店の店舗内通路につきましては、本日、資料配布させていただきましたとおり、閉店後は、閉鎖されるとのことでございますが、当面の間は、同店の店舗外側の通路と隣接する相模大野立体駐車場の通路を迂回路として使用することとし、歩行者動線の確保を図ってまいります。先ほど申し上げました9月補正予算案におきましても、必要な経費を計上しているところでございます。今後、仮に所有者が三越伊勢丹ホールディングスから変更になった場合においても、私自身が先頭に立ち、相手方と交渉するとともに、活力と魅力あふれるまちづくりに向けて、引き続き、全力で取り組んでまいりますので、市民の皆さまにはご安心いただければと考えております。

私からは以上でございます。

(記者)

9月補正予算について伺います。今回の予算は、肉付け予算として、シビックプライドの向上やSDGsの推進に係る予算が計上されています。この2つの事業は、市長も選挙の際に大きく訴えてこられました。この2点について力を入れて取り組む狙いについて、改めて教えてください。また、今回の補正予算についての所感と、名前を付けるとしたら何予算と名付けますか。

(市長)

まず、シビックプライドについてですが、昨年に首都圏1都6県、関西圏2府4県の10万人以上の都市151市を対象に、自分たちの街への誇り、共感、郷土愛について、読売広告社が実施したアンケート調査におきまして、本市は151市中、146位という結果でした。これまでも何度かお話をしておりますが、市民の皆さまがお出かけになった際、「どちらからいらっしゃったんですか」という問いに対して、なかなか相模原市から来ましたという言葉が出ないという話を聞きます。皆さまに相模原のことをもっと知ってもらい、自分たちが住んでいる町、生活している町、働いている町として、相模原に誇りを感じていただきたいという思いから、シビックプライドを醸成するための予算を付けさせていただきました。相模原の良さを知ってもらい、もっと好きになってもらい、市民の皆さまにもシティセールスを行っていただけるよう、条例制定を含めて検討しております。次にSDGsに関してですが、今年の1月に日本経済新聞の調査で、SDGsの観点から本市が持続可能な都市として報じられましたが、残念ながらSDGs未来都市には選ばれませんでした。先日、市内でSDGsに関するシンポジウムを開催しましたが、司会の方がSDGsの読み方を誤っていました。まだまだSDGsに対する理解が足りていないと思っております。本市も、神奈川県、横浜市、川崎市、小田原市、鎌倉市に続き、SDGs未来都市に位置付けられるよう、また、市民の皆さまにもSDGsをより理解いただけるよう、取組を行うため予算を計上させていただきました。今回の予算は、私にとって初めて編成する予算となり、予算の査定を初めて経験しました。先般、黒岩知事に、初めて補正予算を経験し、予算を付けるということがどういうことなのか少しずつ勉強させてもらっておりますと話をさせていただきました。これから4年間で予算に関わる機会が多くあると思いますが、今回はその第1歩となり、幅広く私の政策集で掲げている7つの大きな項目を概ね網羅できるような予算付けとなっております。また、今回の予算の名前なんですが、少し考えさせてください。急なことで考えがまとまりません。

(記者)

伊勢丹についてですが、9月末の閉店まで1か月余りと迫っている状況の中、8月16日に要望に行かれたということですが、要望内容と三越伊勢丹ホールディングス側からの回答について教えてください。

(市長)

私が市長に就任する前から、伊勢丹の撤退に関して心配される市民の皆さまの声を、最も多く聞いてきました。既に店舗の売却先が決まっているのではないかと市民の皆さまの声などもあり、閉店まで40日と迫った中で、未だに相模原市に方向性が示されないのはどういうことなのだろうかという思いで伊勢丹に出向き、閉店後も商業や文化の核として、街のにぎわいを損なうことなく、安心して快適な環境を維持できるよう、公共歩廊の確保や商業施設の配置などについて、経営権が移った場合でも、そのことをしっかり引き継いでいただきたいということを、改めて念を押させていただきました。それに対し、伊勢丹からは現時点では、売却を含め検討を進めているところであり、新たな売却先は正式に決まっていないという回答をいただきました。伊勢丹の担当者からは、相模原市と一緒に歩んできた30年間という歴史があり、店舗を売却する場合でも、売却先には、伊勢丹からも市民の皆さまの要望をお伝えしますという回答をいただきました。

(記者)

伊勢丹への要望は、いつ、伊勢丹の誰を訪問されたのでしょうか。

(市長)

8月16日の夕方に、三越伊勢丹ホールディングスの亀田執行役員とお話をまいりました。6月4日にも面会をしましたが、その時も亀田さんでした。

(記者)

売却の時期などについて話は出ましたか。

(市長)

9月30日の閉店後、公共歩廊も使えなくなるという影響もあることから、遅くとも、9月30日の前後には明確にしてもらうべきではないかという問いに対して、深く受け止めますということでした。閉店前後では決定されるのではないかという感触はありました。

(記者)

相模総合補給廠の一部返還地にあった住宅の周辺の樹木が突如伐採されました。あの住宅は、残して資料館やカフェなどに活用できるよう国とも交渉するような話を聞いたような気がするのですが、いかがでしょうか。

(渉外部長)

現在、この土地や住宅などは財務省が管轄している物件になり、これまで正式に米軍住宅を市として活用したいという申し入れをしたということは承知しておりません。木がうっそうとして、住宅も廃屋の様な状態になっており、駅前の景観上も、安全上もあまりよろしくない状況が続いている中では、市といたしましては、財務省に対して撤去なりの対処を働きかけているというような状況でございます。

(市長)

私も今日の午前中に樹木の伐採について報告を受けまして、財務省が進めているようです。今、記者からありました活用に関する話も、正式に市から南関東防衛局などに話をしているとは聞いておりません。

(記者)

あの位置の樹木を伐採したということは、相模総合補給廠一部返還地での工事が始まったと感じる人もいるのではないかと思います。財務省から事前に連絡を受けていたのであれば、樹木を伐採することをしっかりと市民へ説明する必要があると思うのですが、いかがですか。

(市長)

私は記者が言われるように、カフェや資料館として活用することは、面白い発想だと思います。今回の樹木の伐採の件について財務省から正式に話があったのかどうかは承知しておりません。

(渉外部長)

財務省からの事前連絡があったのかについては、財務省と所管部署に確認します。

(市長)

1つの発想として埼玉県の入間市のジョンソントウンの様に、いわゆる補給廠の歴史の1つとして、遺産として残せるのではないかという思いもあります。今後、相模総合補給廠一部返還地で工事が行われる場合は、事前に財務省にしっかり話をし、市民周知をするなど、丁寧に対応してまいります。

(記者)

補正予算についてですが、公約で掲げたものが、どのように実現されていくか、市民の関心も高いと思います。今回、補正予算に計上したのもあれば、計上できなかったものもあると思いますが、どのような観点で選択されたのですか。また、計上できなかったものは、今後どうしていくのか教えてください。

(市長)

今回の補正予算の規模は12億円ということで、私の掲げる政策の全てを実現することは難しいと思います。その中で、先ほどお話をさせていただいたシビックプライドの醸成や、SDGsの推進、人権に関する施策など、まず手をつけなければいけないものから、予算を計上させていただいております。令和2年度の当初予算が、私にとって最初の本格的な予算になってまいりますので、今回計上できなかったものは、当初予算で計上し、私の政策の実現に向けた色を出していきたいと思っております。

(記者)

公約の中でも、大変時間がかかるなど感じるものや、難しいかなと思うものはありますか。

(市長)

この4か月間で感じたことですが、市立高校の設置に関しては、既に市立高校を設置している横浜市や川崎市、横須賀市などにお話を聞き、県の桐谷教育長にも相談させていただき、少しずつ勉強をはじめていますが、課題が多くあると感じております。また、敬老パスについてですが、試算をすると、年間11億円から12億円の経費がかかる見込みということで、多くの予算を必要とし、実現に向けては厳しいと感じる部分があります。特にこの2点については、予算的にも、そして市のスケールの的にも課題があると実感しています。ただ、課題があるから取り組まないというわけではなく、チャレンジしていかなければならないと思っております。運転免許証を返納したいが出来ないとか、車が運転できなくて買い物に行くことが困難などという、様々な声もありますので、仮に敬老パスが実現できなくても、例えば公共交通機関の空白地に公共交通網を導入することで、そういった声にも対応できるようにしたいと思っております。私が掲げた政策をすべて実現することが、市民への公約を果たすことだと思いますが、現実的に実現へのハードルが高いものがあるのだなと実感しています。ハードルが高いものに関しても、お約束した形と違う形であっても、市民サービスの向上につながれば良いのではないかと考えていますので、あらゆる模索をしていきたいと思っております。

(記者)

相模総合補給廠の一部返還地のまちづくりに関して、市民の声をいろいろと聞いていきたいということでしたが、どのようなコンセプトを考えているのでしょうか。

(市長)

先日の8月17日と明日21日に、市の職員が相模総合補給廠周辺を歩いている方々に対してアンケート調査を予定しており、17日は約150件のサンプルを取り、明日も同規模のサンプルを集めたいと考えております。その後、郵送で約2千人を対象にアンケートを実施し、市民の皆さまの声を聞く予定です。そうした形で市民の皆さまとの対話を重視しながら、どのようなまちづくりを進めるか決めていきたいと思っております。

(記者)

一部でスタジアムを核としたまちづくりをした方が良いのではないかという意見もあるようですが、市長はどのようにお考えですか。

(市長)

4つのホームタウンチームの皆さまが中心になって取り組んでいるとのことですが、私は1つの案としてスタジアム構想は有効ではないかと思っております。私自身も、調布市の味の素スタジアムや吹田市のパナソニックスタジアムなど、各地のスタジアムを視察したいと思っております。周辺でショッピングができるスタジアムや、札幌ドームの周辺には温泉施設があるとも聞いており、市民の皆さまのニーズに合った多様型のスタジアムは非常に人気があると思っております。

(記者)

相模総合補給廠一部返還地のまちづくりに関するアンケート調査では、どのくらいのサンプルを取って、コンセプトに反映させるのですか。

(森副市長)

まず、8月17日と21日に街頭でのインタビュー形式によるアンケートを行い、相模原駅周辺について、皆さまがどういう課題を持ち、どのような印象を持っているのか、幅広い年代から聞き取りします。郵送によるアンケートの実施も予定しており、2千件の発送を予定しておりますが、これまでの実績からすると5割もしくは6割くらいの回収になると見込んでおります。その中で、相模原駅周辺に市民の皆さまが抱えている課題認識、あるいはこういう街を望むなどという意見を参考にしながら、どんなコンセプトに結び付いていくものかを具体的に探っていこうと考えております。

(記者)

若手職員等の意見も参考にしながらコンセプトを作るという取組もあるようなのですが、具体的にどのようなものなのですか。

(副市長)

本日から相模原駅北側の相模総合補給廠一部返還地におけるまちづくりについて公民連携で検討する研修を行っています。本日はオリエンテーションを行っており、今後、どのような魅力を生み出していけるのか、チームに分かれて考えていきます。その中で議論され出されたアイデアは、後日、11月中旬以降に市長へ報告されることになっております。

(記者)

若手職員とはどの位の職位の方でしょうか。

(副市長)

概ね、主任、主査クラスの30代以下の職員であり、民間の方も交え、20数名という規模になります。

(記者)

シビックプライドに関する条例と、人権に関する条例について、それぞれ制定の目途を教えてください。

(市長)

人権に関する条例については、検討にあたって市の附属機関である人権施策審議会に諮問し、その後審議会において議論いただくとともに、市民の皆さまからも意見をいただくなど、丁寧に進めてまいりたいと思っております。条例の対象となる範囲や罰則についても、本市のおかれた状況等を踏まえるとともに、審議会、専門家、市民の皆さま等の意見を伺ってまいりたいと考えております。現時点で条例の制定時期については、はっきり申し上げることはできないのですが、なるべく

川崎市に遅れることのないように進めていきたいと思っております。これから諮問する状況ですので、1～2年はかかるだろうと思っております。また、シビックプライドに関する条例に関しては、来年度中には作りたいと思っております。今後、令和2年3月にシンポジウムを行う予定で、その他にも、パブリックコメントを来年の秋ごろを目途に実施していきたいと考えております。早ければ来年の12月議会もしくは、その翌年には提案したいと考えております。

(市長)

オリンピック・パラリンピック開催1年前イベントのお話をした時に現物をお見せし忘れましたので、この場で紹介させていただきたいのですが、クイズラリーの賞品のTEAM SAGAMI HARAのロゴが入ったTシャツやタオルです。また、先ほどお話ししました東京オリンピック音頭の法被も4種類のデザインがあり、貸し出しも行っております。これを自治会や公民館のイベントなどで着ていただき、皆さまにも踊っていただきたいと思います。私も先日、踊りましたが、それほど難しい踊りではなかったので、記者の皆さまも一緒に踊ってみてはどうですか。ぜひ、この踊りが広まるよう宣伝いただきたいと思います。

(記者)

先ほど質問させていただいた予算の名前についてはいかがですか。

(市長)

スタートアップ予算と名付けたいと思います。スタートアップの意味には、行動開始、ビジネス用語で立ち上げや起業などの意味があるということから、スタートアップ予算という形にしたいと思います。

(記者)

補正予算に計上している、AIを活用したサービスの提供について、こうした取組は職員の負担減や今後の人口減少に対する対策にもつながってくると思いますが、そういったものを導入していくことに対する意見をいただけますか。

(企画財政局長)

働き方改革や、担い手不足が顕著になっているという状況では、こうした情報ツールを使うことで、単純作業を機械化し、今まで人が何時間もかけて行ってきたことが大幅に短縮できるということを、既に今年3月までに実証実験を行っております。その結果も踏まえ、本格的に導入することで、より効果的、効率的な事務執行ができるのではないかと考えております。

(記者)

伊勢丹相模原店閉店に伴う迂回路の使用期限についてですが、当面の時期がどの程度になるか目

途があれば教えてください。

(市長)

先ほども申し上げたとおり、私の感じているところでは、閉店前後には伊勢丹から正式な話があるのではないかと考えています。伊勢丹にも確認したところでは、売却をすることになるならば、次の所有者が判断をすることになるので、現時点では時期は明確にできないと思っております。

(記者)

店舗の売却先が発表された場合には、店舗内通路の復活も含め、改めて市として協議していくのでしょうか。

(市長)

この店舗内通路は、相模女子大グリーンホールや相模大野中央公園、相模大野図書館への歩行者動線として非常に重要な通路です。この通路は相模大野駅周辺の公共施設にとって生命線と思っております。次の所有者が建物をそのまま使っていただくのならば、現状維持をお願いしていきたいと思っております。今の建物を解体し、新しいものを建てられる場合は、私自身が先頭に立って、公共歩廊を設けていただけるよう交渉していきたいと思っております。先ほどお話したように、三越伊勢丹ホールディングスの亀田執行役員からも、相模原市民からの要望をしっかりと引き継ぐという話をいただいておりますので、そのことを次の所有者には引き継いでいただきたいと思います。現在の公共歩廊がなくなると、市民の皆さまに不便を強いることになってしまいますので、何としても公共歩廊の確保はしていきたいと思っております。

(記者)

伊勢丹相模原店の店舗内通路というのは、市で区分使用の費用を負担しているのですか。

(まちづくり事業部長)

協定を結び、伊勢丹から無償で提供いただいております。

(記者)

新しい所有者が無償で使用させていただけないという話になった場合は、使用料の負担や区分所有なども検討されるのでしょうか。

(市長)

現在と同様に、無償で使わせていただくことが望ましいと思っております。新しい所有者も民間の方でしょうかから、無償提供ではなく、区分所有等の条件を提示される可能性もあります。その場合は、しっかりと交渉し、公共歩廊を確保していきたいと思っております。

以上